

実験概要

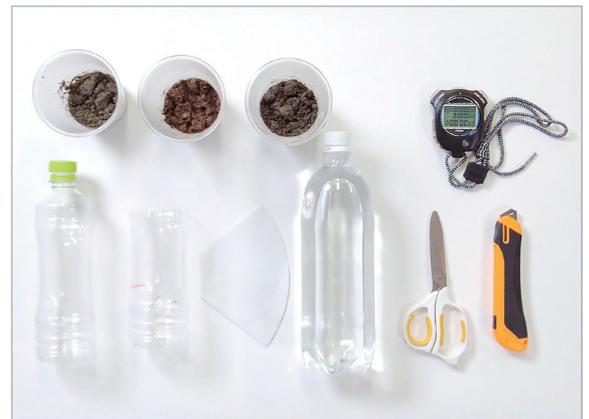
種類の異なる土に同量の水を混ぜ、それらをろ過することによって、一定時間内に落ちた水の量を比べる。

実験の目的

土壌の種類によって水を透過させる力にちがいがあるかどうかを調べる。

実験材料

- 3種類の土壌
(道路の土、畑の土、川の土)
- 500mLペットボトル×6
- 透明カップ×3
- コーヒーフィルター×3
- 水
- ストップウォッチ
- ハサミ
- カッターナイフ



川の土は、河口付近の「泥」を用いる。

実験準備

① 漏斗をつくる

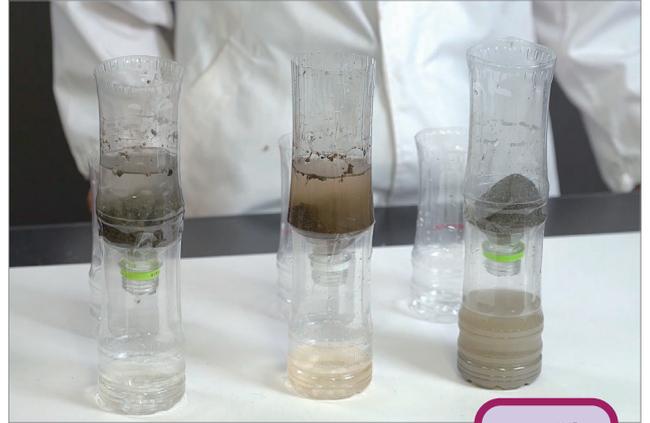


② 漏斗に土壌を入れる



実験手順

3種類の土壌の透水性比較



58秒



3種類の土に同時に水を加えたり、計時したりするために複数の人手が実験に必要。

実験結果と実験からわかってほしいこと

同量の水を入れ、「道路の土」の水が落ち切った58秒時点の水の量：



- 土壌の種類によって、水の透水性がちがう。

川の河口の土	粘土質	水を長くとどめておくことができる
畑の土	砂質と粘土質	適度な透水性がある
道路の土	砂質	水をためておく力が弱い



透水性とは、単位時間あたりに通す水の量で示す。